



作業療法だより(1)

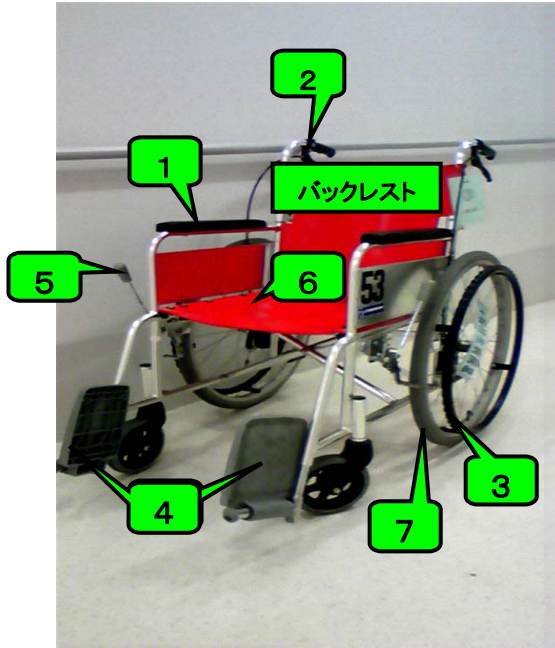


平成20年1月

新年明けましておめでとうございます。本年も当大阪回生病院作業療法を宜しくお願い申し上げます。今回の作業療法だよりは日常生活上、患者様や家族様にとって移動時の際に大切な「車椅子」について、第1回目の今回は「自走用車椅子」を紹介します。

車椅子は、移動のためにだけではなく、食事や仕事時の際の椅子がわり等、生活の中で使い分けることが可能です。ご自分の体型・生活環境・家屋環境にあった車椅子を選ぶことが重要です。

1. 車椅子の各部名称



1. アームレスト(肘置き)

肘置きまでの高さ: 座面から肘までの高さに1~2cmプラスする。

2. ハンドグリップ

ハンドグリップまでの高さ/介助者用押手: へその高さ

3. ハンドリム

手や指に障害があり、リムを握りにくい方にはノブなどが付けられる。

4. フットレスト

固定式・スウィング型・脱着型がある。

5. ブレーキ

レバー型・トグル型・延長式や脱着型などがある。

6. 座シート

座幅: 臀部幅に0~5cmプラスする。

7. 駆動輪

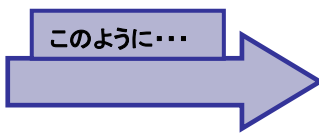
一般的に24インチが使用されている。

2. 座位保持と体圧分散

骨盤が傾き仙骨座りになっている



一般的な車椅子の座シートはスリングシートになっており座るとたわみが起こり、左写のような不良姿勢座位になってしまいます。また歩行ができなくなり、車椅子に座っている時間が長くなると、大腿部やお尻の肉が痩せて薄くなり、骨が突出して床ずれの原因となってしまいます。



車椅子用クッション



車椅子の座面に体圧分散性の高いクッションを置くことによって、床ずれを防止することができ、何より座面から臀部が滑ることが少なくなるので、不良座位になることが防止できます。このように、当作業療法では、患者様の身体状況を検査・把握し、正しく快適に移動手段を確立するように心掛けています。